

審議会等の会議結果報告書

【担当課】生涯学習課図書館係

会議の名称	令和2年度第2回図書館協議会		
開催日時	令和3年1月29日（金） 午後6時～7時30分		
開催場所	茅野市図書館 閲覧室		
出席者	矢崎智義委員長、岩崎和子副委員長、両角薫委員、小口かおり委員、戸田茂生委員、平澤洋子委員、矢崎進一委員 山田教育長、北沢生涯学習部長、藤森生涯学習課長、五味図書館長、両角図書館係長		
欠席者	田村満理委員、原猛委員、三代沢正委員、伊藤英一郎委員、百瀬るみ委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容		
教育長	<p>1 開会（生涯学習課長）</p> <p>2 教育長あいさつ 皆さんこんばんは。今日もよろしくお願いたします。前回の図書館協議会から、だいぶ日がたったわけですが、コロナが全くおさまっていません。コロナの中で人と人が分断されていく。そんなコロナの中でも本を中心とする文化、本の世界が人と人をつないでいると思います。図書館の様子を館長から聞いたわけですが、本を大切にされる方は来館されている。ただ、閲覧の時間が制限されている。</p> <p>いつも、本の話をするわけですが、「少年と犬」という本のことです。直木賞受賞作です。ここに出てくる犬は3.11の時に子犬で、たまたま公園で知り合った少年がいて、その少年を全国ずっと追いかけて、熊本にいるところまで行く。仙台から熊本までの間に、6人の人と出会ってその人と一時生活をしながら熊本へたどり着いた、そんな話になっています。その中で、私が心に残った言葉が、「犬は人という愚かな種のために神様が仏様が遣わしてくれた生きものなのだ。」というものです。久しぶりにちょっと種類の違う小説でした。学校教育課長に貸したら、「この小説は登場人物がみんな死んでしまう。どうしようもない作品だ。」と怒って言いながらも、目を真っ赤にしていました。二人で本の批評しとても楽しい時間を過ごしました。みなさん時間があったら読んでみてください。</p>		
図書館係長	<p>3 審議会の公開について (資料に従い、審議会等の公開について事務局から説明。)</p> <p>(特に異議はなく、本日の会議について公開とすることを決定)</p>		
図書館係長	<p>(事務局から、会議の出席状況と傍聴者について報告)</p>		

生涯学習課長	<p>4 会議事項 これより会議事項に入ります。進行は委員長をお願いします。</p>
委員長	<p>(1) 令和2年度図書館運営状況について 最初の会議事項は、「令和2年度図書館運営状況について」、館長から説明をお願いします。</p>
図書館長	<p>資料説明の前に、この部屋閲覧室は、今はコロナの関係で使用できませんが、真中のエアコンが壊れています。また、音がうるさいので、片側の機械も止めていますので、だんだん冷えてくるかもしれませんがご承知ください。</p> <p>(資料1について、図書館長から説明を行う。)</p>
委員長	<p>ご質問、ご意見ありますでしょうか。</p>
委員長	<p>私のほうからひとつ。理科大出前講座は平日のみということですが、平日の夜あるいは夕方とかはできるのでしょうか。</p>
図書館長	<p>いちおう先生方の勤務時間中ということになっています。この時間なら来られるのに残念という要望もありますので、理科大の総務に相談したいと思います。</p>
委員長	<p>せっかく地域の大学があつて、もったいない気がしますね。他にご質問、ご意見ありますか。</p> <p>(特に質問、意見なし)</p>
委員長	<p>(2) これからの図書館について 次に進みます。図書館の課題についてお願いします。</p> <p>(資料1の4 図書館の課題について図書館長から説明)</p>
	<p>図書館としては、入館者(利用者)をいかに増やすかというところがありますが、何人かの方から、「茅野市の図書館は古い本が多い、整理して新しい本を入れてほしい」という話がありました。古い本でもいまだに利用されているものもあれば、借りられてない本もあります。また、入れた当初に借りられてから利用のない本もあります。整理の仕方が難しく、ただ、社会情勢を反映したものについてはその時期のものなので、資料として残すかどうかという問題もあります。館内の整理をして、シミのある本、破れた本など使用に耐えないものをかなり整理して、およそ千冊除籍しています。その代わりに毎年二千・三千という本が入っています。</p> <p>図書館は本当に地域の施設として情報源になっています。最近では新聞を取らない家庭が多くなっていて、開館するとすぐ新聞を読みに来る方がいます。新聞もそうですけれども、やっぱりいろいろなところから図書館に</p>

	<p>行くと情報が取れるのではないかと行って問い合わせがきます。行政サービスについての問い合わせもあります。そういうところにも図書館の役割があります。それに応えるものをもっていなければならないので、いろいろ難しいです。</p> <p>この建物がこれで40年になります。今後図書館を含め市の公共施設をどうするかという見直しをしています。前回みなさんのこういうことを大事にしたほうが良いのではないかとのご意見をまとめさせていただいたものを提示しました。</p> <p>今年はコロナの関係で交付金を活用して、百万円余分に資料購入費用を確保でき、視聴覚資料等も購入することができました。利用者の登録も増えてきています。これから10年20年後の茅野市図書館をどうするかということについてみなさんのご意見をいただきたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>次の資料の説明をお願いします。</p> <p>(資料2の1・2について、図書館長から説明及び図書館係長から補足説明を行う。)</p>
<p>委員長</p>	<p>みなさんそれぞれからご意見を伺いたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>親子と一緒に図書館に行ける場所。静かに本と向き合うあるいは勉強ができるというスペース。もう一つは親子で来てくつろげて話ができる和やかな雰囲気のあるスペース。動と静の空間があるというのが一つの魅力になるのではないかと。やっぱり人が集まらないといけないのかなど。人を集める工夫がほしい。ポイント制というものもあってもいいかと思えます。</p>
<p>図書館係長</p>	<p>ポイント制というほどのものではありませんが、おはなし会のカードがありまして、参加するごとにスタンプをつけて、参加回数で、書店さんから提供していただく付録みたいなものですか、そういうようなものをちょっと配ったりとかというようなことは、やっています。</p>
<p>委員</p>	<p>しばらくは建物を変えられないということなので、夢のような話になってしまうかもしれませんが、全国で見ても世界的に有名な建築家の方が図書館を作られていて、老人施設や保育園を併設していたりとか、そこでちょっと喫茶コーナーがあって、本を見ながら、お茶ができたとか、人が集まる空間がすごくおしゃれになってきていると思います。この辺で見ても、例えば、イオンモールなんかでいくと、もう本屋さんと喫茶店は一緒になっているし、小淵沢のリゾナーレでも、やはり同じように、すごい買い物や、ホテルに泊まりに行きながら、おしゃれなコーナーで本を読むとか、何かそういうことは、みなさん好きだし、ここは都会から人がたくさん出入りしている場所なので、そういうふうな部分もひとつあるかと思えます。</p> <p>今学校も、なかなか本を借りる時間を取りにくくなっている。図書館で一斉授業が密水の関係できない。ということで、何とか図書館の貸出をふやしたいなって思って、休校中も開館したりして、5冊貸出をしたのです</p>

けど、意外に来なくて、休校が終わって、貸出するときに、やっぱりたくさん借りて欲しいから5冊貸出にしましたが、本が重くて子どもたちが持ち帰らなかったです。だから、毎朝図書館の本を、朝の読書の時間に読むことはしたのですが、家に持ち帰ってまで読まなかったから、冊数はそんなに伸びなかったです。あと、2学期になっていろいろな活動ができるようになって、社会見学があり、たくさん行事ができるようになって図書館への足が遠のいてしまったということがありました。

ちょっと私が今すごくこう魅力だなと思っているのが、読書貯金。本当に銀行の、通帳と同じようなもので、子どもたちは0歳からずっと読んできたものを、図書館の入口でかざすと、印字されて、それがずっと残っていく。ただ、お金がかかったりするんで、銀行さんとか、金融の方とかのバックアップをしてもらって、設置しないと、ちょっと予算的に厳しいのかもしれないですけど。

学校でも、子どもたちが読書カードを書いて、記録をつけていますけど、あまりにも字が下手だったりすると、カードに自分で書いて、自分でやったものなのに、魅力を感じない。あれが、例えば学校の図書館とかで、読んだ本が印字されて、見返したときに、昔ちいさい頃、こんな本を読んだということがわかると魅力的だし、そういうのがあったら、自分でも子どもに残したい。

二つあって、図書館の競争相手って何だろうって考えると、ネットワークとか、デジタルの世界だなと思いますので、そこどう差別化するかっていうのはやっぱり考えないといけないかなとは思っています。やはり、図書館には本を読みたいっていう方とかいろいろ調べものもしたいって方とかいろいろな目的を持っていらっしゃるかと。おそらく調べものしようと思ったら、やっぱりネットが圧倒的に早いですよ。もう10年前では考えられないくらい情報量が多いので、そこは図書館としてどう考えていくか。ちょっとそこはちょっと見えません。私も時々電子書籍を買いますが、やっぱりそれは経済的な問題とかもあるし、やっぱり、こうやって見てもやっぱり全集だとか、電子の世界では買えない部分がある。どこでも手に入る本は考えずに、まとまっておいてあるような本を全面的に押し出すことが、一つ切り口としてあるのかなっていうちょっと気が漠然としています。

その中で、インセンティブな話がありましたが、長野県は、建設課かどこかが、県内のトンネルの写真を載せたカードを作っていて、行くと、それをくれます。例えば茅野市だったら、茅野市の遺跡だとか、費用はかかりますけどちょっとしたカードを作って、借りることが目的になるとまずいですが、スタンプと同じように、カードがもらえるだとかで、コレクションが好きな人の気持ちをくすぐるということもできるかなとちょっと思いました。

もう一つ、サービスの方法の中で、宅配はいいと思います。その時に、シニアをもっと生かしたらどうか。宅配ボランティア的なものはないのかと。60代後半から70代前半のパワーは、すごいですよ。自己表現の場が欲しいけれども、なかなかそういう方は、一線はずれている。だけど元気、パワーが有り余っている。その世代の方々、時間もある、経験もあ

委員

る。ある程度、体も動く。そういった方々の力をお借りして、例えば本の宅配や、館内整理のお手伝いとか、図書館だけではなかなかできない部分をボランティアが支援できる仕組みがあると面白いかなと思います。

今、学校図書館も、人との繋がりを大事にするっていうことと、個別の最適化っていうことを、この相反する二つの概念は、もういつも共存する社会になっていると感じます。それで、人との繋がりにっていうことで、そうすると、ここに来てっていうことで、さっきからのすてきな図書館。それが今しばらくこの建物だっていうことで、個別最適化ということを見ると、先ほど館長さんの方から、ネット予約が増えているっていう話があって、「すわずら〜」から入る方が多いと思いますけれども。その時にログインは、多分、ネットからの初めての申込ができないのではないかと思います。

図書館係長

今は、インターネットの茅野市のホームページから、ネット登録の申し込みをしていただけるように今年度の5月から変えました。そこから申し込んでいただくと、翌営業日にご登録させていただいて、ご本人にメールで連絡すると、そのパスワードで、ネットの予約ができるようになっていきます。

委員

失礼しました。ただ、とてもすてきな画面なので「すわずら〜」の画面で、申し込みができれば、検索をして、情報を見つけて、これを借りようという気持ちになったところで、予約できないという、ちょっとそこにハードルがあるのではないかと。そこが予約できれば、申し込んで、図書館に来て、それを継続していけるのではないかと。その入口をもう少しハードルを下げていただいて、もう少しその手続きがそこで行えるようになるというのではないかと考えます。

もう一つは先ほど別の委員さんもおっしゃっていた、読書貯金っていうのは本当にすてきなシステムで、そこで、自分のものっていうのが、これやっぱデータ社会でこうずっと見えるっていうのは、ベストだと思います。そうじゃないと紙では膨大な情報になるので、そういう自分だけの、読書記録というものが持てるということは大きな魅力だなということで、今のこの建物っていうことでなくそういうそちらの方を工夫していただくとありがたいなというふうに思います。

今年度も本校は図書館教育っていうことで公開させていただきましてので、情報センターとしての図書館というのは本当にネット社会ではあっても、とても大きな意味があると思います。

その中で、やっぱり学校図書館っていうのは司書の先生がいてくださってこう、市の図書館から、いろいろな本を相互貸借して、連携していますけれども、そのあとのよさは個人でもそれが自由に、できるということではないでしょうか。そこをやっぱりふんだんに使うっていうことを考えていくと、やっぱりそのネットの部分っていうのをもう少し評価していけるとありがたいなというふうに思っています。

委員

このアンケートに、10年先、20年先の図書館を考えるとということで、私もいくつか出させていただいてまとめていただいたのですが、図書館協議会で意見を言って、果たしてこれいつどうなるのだろう、ちょっと先が見えないですけども。まず、できるところから、始めていただければいいのではないかと考えています。

先ほど、シニアの方にボランティアをしていただくとかは、とてもいいことではないかと思えます。「読り一む in ちの」で、市長さんと懇談会をさせていただいたときに、もうぜひ、茅野市を読書のまちとして、もうちょっとPRして欲しいということを申し上げました。図書館の建て替えが10年先20年先になるかわかりませんが、そんな先まではちょっと待てないというのが実際のところですけども、もうちょっとやはり茅野市の観光、また地元の企業なんかと一緒にタイアップして、茅野市を読書のまちとしていきたい。これが私の思いです。聖地巡礼で茅野市をPRしているところもありますし、有名な作家さんなども茅野市にお住まいの方もいらっしゃいますので、そのようなところと、もうちょっと繋がっていただいて、図書館もその中に入っていただいて、読書のまち茅野市ということを目指していきたいと思っています。

副委員長

今、ずっとお聞きして、さすがに現場を持っているみなさんは強いと思いつつながら、なるほどと聞いていました。ポイント制のことが出てきましたが、あれ小学校の子どもたちは読書カードを何枚も何枚もホッチキスで止めて、いくつ借りたか、結構喜んでいました。でも大人はなかなかそれができない。貸出のレシートを貯めている人がいると、前に聞いたことがありました。それなので、読書貯金。おはなし会にきた人は、ポイントみたいなものがあります。本を借りた人がやはり、何冊か借りておめでとうということがあり、そこに自分が今まで借りた本の打ち出し、それって多分機能的にはできるはずですよ。それを打ち出して、その人にプレゼントする、そのぐらいのことは、特別のお金をこれからかけなくても、できることだし、そして、人に自分がこんなふうに読んできたということが出来る。そういう読書に対する愛着みたいなものを、醸成することにもなるのではないかと考えて、ずっと聞いていました。

この場所は、私が元気になっている間は多分ここだろうと、そういうことでいろいろ考えました。制約がある中でも、やはり魅力っていうものがすごく大事なことでないか。その魅力も、誰に対してってではなくて複合的な魅力でないと、これからいろいろな人たちを捕まえることはできない。子どもに対するサービスだけではなくて、もう少しもっと大きなことで、ポイント制もその一つになると思います。

本当に、あと7年後には、高齢者が3分の1になる。茅野市の子ども向けのサービスはしっかりしています。でも、高齢者に向けての、これからサービス、それをしっかり考えていかないといけないのではないかと考えました。調べ学習については、本当に今ネットに載っています。スピードでいったら。ただ、私もよくやりますが、これ、ネットのどこから調べてきたのかわからなくなる。サイトの信頼性だとかがあるということ、リテラシーとして、子どもには、まず、物を調べるっていうことは、図書館からだ。そこをクリアした大人は、自分の世界の中で調べていくことは

それでいいのではないか。

宅配のお話があって、理科大では、返却はできます。分室があれば貸出もできるけど、返却はできる。でも私が、これから一年の間に、読みたい本があっても、なかなか本館に来る勇気が、ちょっと持病持ちですので、なかった。そのときに、予約をかけて、それを届けてもらったら、どんなに便利だろう。返却はね、夜遅くでも車で来て、返却ポストに入れられます。そうすると、これからいろいろな世代の人たちに向けて、図書館が広がっていいのではないのでしょうか。

この間、夜あるリモートのセミナーを受けました。自分の家にながら、そして講師は東京にいます。これからは図書館も、これをやっていかななくてはいけないのでは、特に理科大の先生の講座は聞きたいと思いますが、昼間の時間は、ほぼ、出歩けないということもありますし、コロナが収まったところで、この先々何が待ち構えているかわからない状況の中で、これからそのいろんな災害やそういう状況が起きたときのことも、考えていかななくてはならない。それだったら、やっぱりリモートで発信できる。そして、時間に束縛されないで聞くことができる。で、平日だけしか理科大の先生がだめという制約があるのであれば、例えば、ご自宅からでも発信できるし、もしかしたら、それをビーナネットにアップしてもらえば好きなときに、好きなところで聞くことができる。

茅野市の中にある機能を、図書館だけじゃなくて、みんなが使って、いろんなことをやれば、もっとサービスが豊富になるのではないか。皆さん、ビーナネットのことをほとんど知らないみたいですが、そういう機能が茅野市にあるなら、伝えていけばいい。伝え方が難しい。私は図書館からいつもメールマガジンが届きます。セミナーの申し込みとか、インターネットからできるようにして、人を集めることができる。こないだセミナーの中にアンケートがあって、回答すると、瞬時にそのパーセンテージが出ます。でも、茅野市の部署で、やっているのであれば、図書館でもできるのではないかと。それで、この広い茅野市の中に、情報を届けることができるのではないかと考えています。

個別のいろんなことに対する最適化を図っていくというところで、児童コーナー「どんぐり図書室」は、とても素敵な場所なので、静かすぎて身の置きどころがなかったという若いママさんたちの声を聞きました。あの場所を「読り一む in ちの」でなにかができるといいのではないのでしょうか。図書館がすべてを行うのは、これから困難になっていくのでは。「読り一む in ちの」は、いろいろ活動していますが、固定した現場がない。なので、現場が持てるともっと違う発展ができるのではと思いました。

いろいろなご意見ありがとうございました。図書館の話をしていてわからなくなると戻る場所があります。平成17年にリニューアルしたときに、図書館についての知識を持つことをやりました。アメリカ図書館協会の「アメリカ社会に役立つ図書館の十二か条」があります。図書館とはこうあるべきだという、いろいろな目で図書館を見ているものです。みなさんは、いろいろな立場で選出されている方々ですので、自分のところにはお詳しいですけれども、図書館全体の話となれば、広い目で一回図書館を見てみる必要があるかと。図書館が地域に必要とされるいろいろな側面が

委員長

あるけれども、それを理解していただいたうえで、議論を進める必要があるのではと思います。

紙資料とか場所にこだわる必要はなく、市民と情報について、情報を蓄積して生かす場所はどうあるべきか、もっと広い視点で、インターネットを含めた形で図書館を考えていく必要があります。

駅前にできた「まちライブラリー」では、人と人を本で結びつけることを考えています。図書館に全く話がなかったのは残念でした。

以前は、協議会で先進地図書館の視察を行っていました。図書館のあり方についての本質の話をしてから、市民と情報とのかかわり方について議論を進めていったほうが良いと思いました。

5 その他

(特になし)

6 閉会

「茅野市公共施設再編計画」において、2022年度までに各施設で今後の方向性を出すことになっています。図書館については、図書館協議会を中心に、本質を見つめ直して、もう一度議論していければと考えます。みなさんからいただいたアイデアを重く受け止め、原点に立ち返って、考えていきたい。

今回は、次年度となります。3月末をもちまして2年間の任期が終了となりますが、引き続き委員をお願いする場合もあるかと思っておりますので、みなさまよろしくお願いたします。ありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度第2回図書館協議会を閉会といたします。お疲れ様でした。